



水鳥の池の環境づくり



この周辺には、もともと田畑や水路があり、調整池を整備しようとした際に、絶滅危惧種のセイタカシギをはじめ数多くの水鳥の飛来が確認されました。水鳥や水辺の生き物が生息できる環境づくりのため、調整池の整備手法について専門家と検討を重ね、整備前の環境の一部復元など環境への影響を軽減するように工夫(ミティゲーション手法)しながら工事を実施しました。ここには今でも多様な生物が生息しています。

詳しくはスマホでGO!



■ミティゲーション手法の概要

凡例 □ 生物生息空間 → 流水方向
■ 造成箇所 ⇄ 暫定管

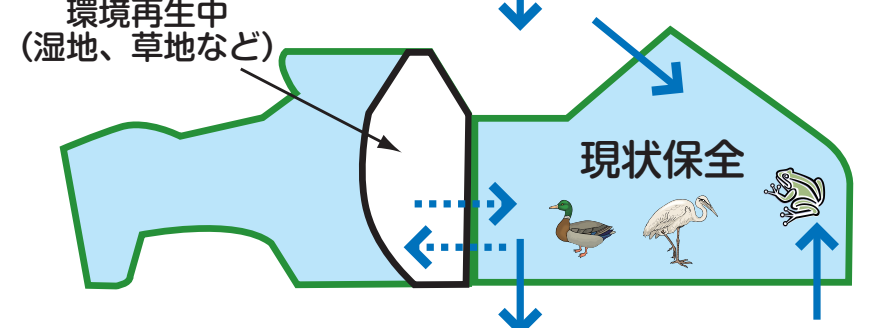
第1段階

・坂川暫定調整池の一部を造成



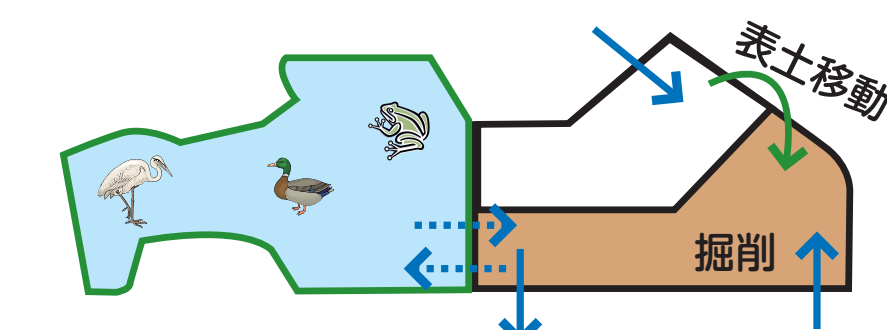
第2段階

・造成地の環境(湿地、草地など)を再生



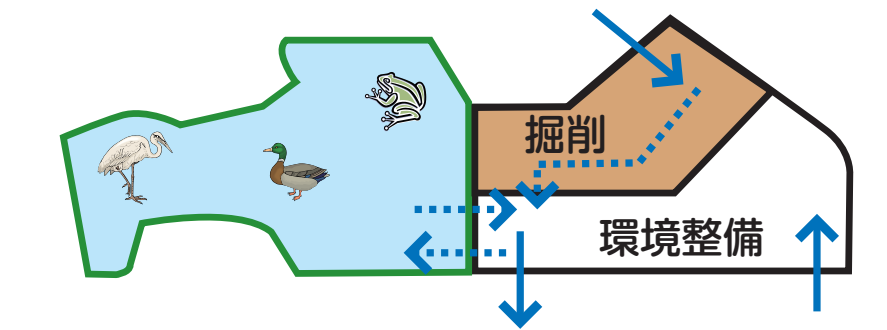
第3段階

・市野谷調整池内で表土を移動し、第1期の掘削



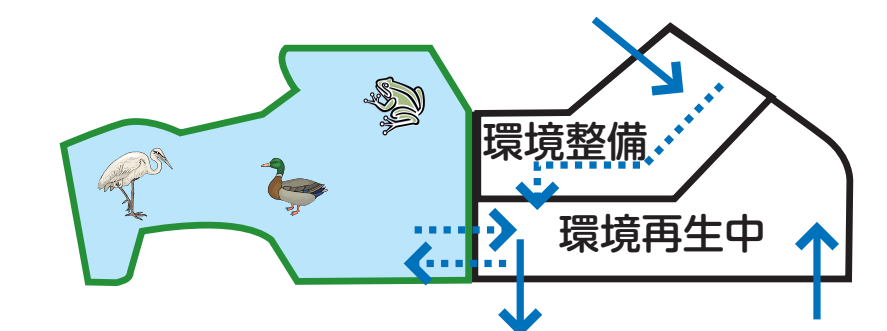
第4段階

・市野谷調整池内で第2期の掘削



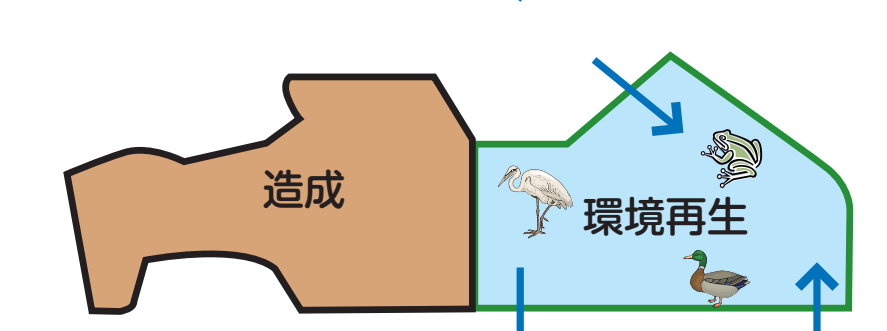
第5段階

・市野谷調整池の環境(湿地、草地など)を再生

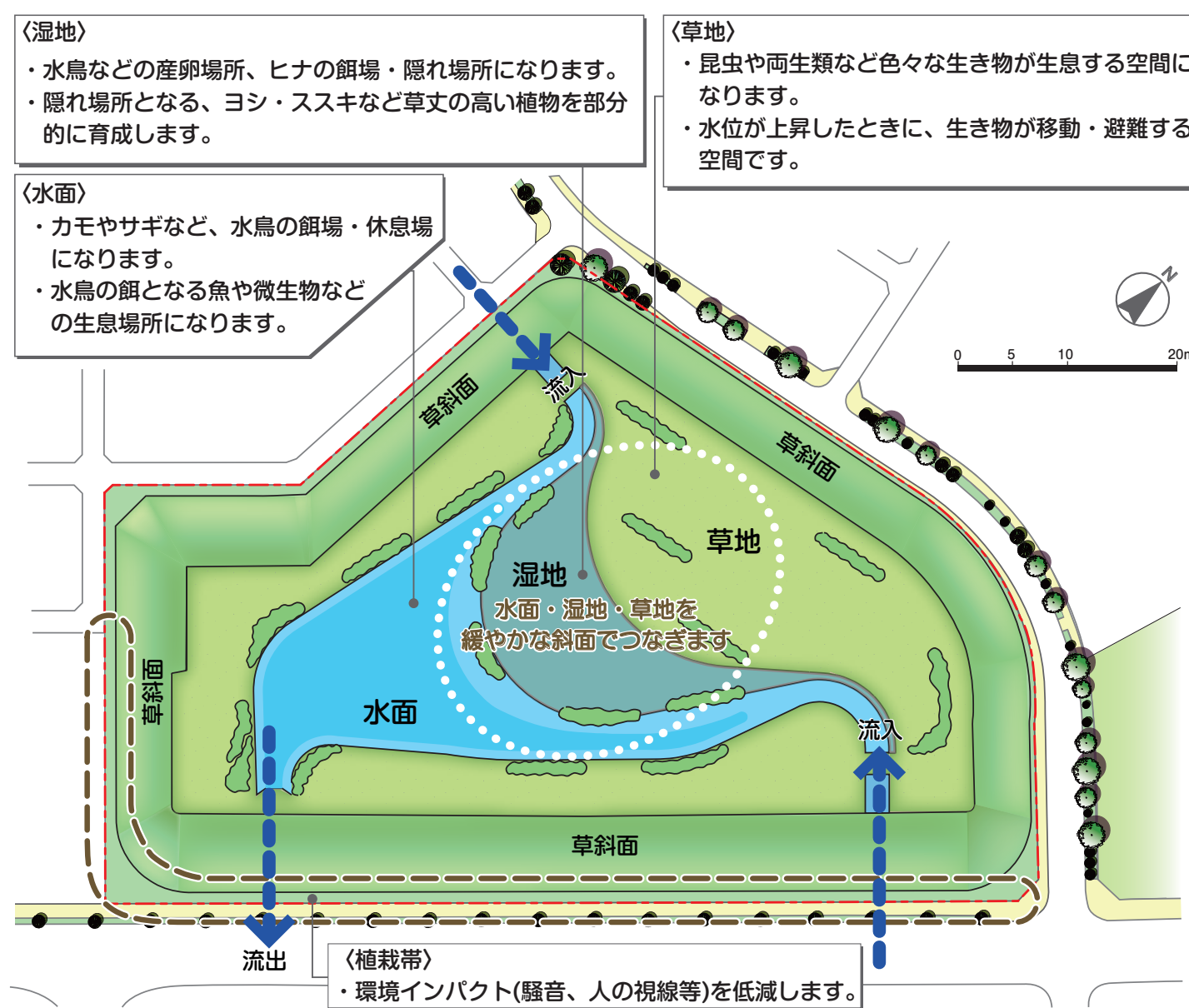


第6段階

・市野谷調整池の環境(湿地、草地など)が再生後、坂川暫定調整池を埋立造成



■計画図



■調整池で見られる生き物

セイタカシギ
体長が30センチから40センチほどで、湿地、干潟、湖沼や水田などに生息する脚の長い水鳥。「水辺の貴婦人」と呼ばれ、県内では、習志野の谷津干潟などで生息が確認されています。水鳥の池では、セイタカシギの生息と4羽の幼鳥が確認されました。

